

今治明德  
短期大学

歩き遍路体験学習レポートから

①

幼児教育学科一年

白石 陽子

「五日間歩ききった」、このことは私の誇りです。一五四・二キロメートルを五日間で歩く一言葉にするの簡単で、実際私も甘く考えていました。

このような長距離を歩いたことはなく、車などの乗り物に頼っていた私にとってはとても辛く感じました。疲れて食事をとるのも嫌になり、昼は栄養ドリンクだけで済ませることもありました。



足に優しい山道を実感

荷物など余分な物を持って行ったので重く、肩には痣ができました。足にはマメもでき、凄くシヨックでした。どこかに「自分は歩くくらいで故障なんかしない」と驕りがありました。自分が普段どれほど楽に生きていたのか気付きました。

それを突きつけることで、小さなことに悩み、簡単に諦めていた自分が恥ずかしく、シヨックを受けたのだと思います。何故自分は歩いているんだらう、何故歩かなければならないのか。休みた

### 歩く度に素直になる自分

い、止まりたい、もう歩きたくない、止めてしまおうか。マメは歩いたびに痛く、何度も止まろうと思いました。

しかし、その度に辛い思い以上の力を私にくれました。それは、今まで気付かなかったことを知る喜びであつたり、みんなの存在であつたに他なりません。

舗装された道路を歩いていて土の道や山道に入ったとき、この道がどれだけ足に優しいかということに気付きました。もちろん険しい部分もあるけれど、柔らかく包み込んでくれるような感触でした。これは長いこと歩かないと分からないことだと思います。たったこれだけの発見が、普段からは考えられないくらい嬉しく思うのです。そして、このような小さなことも喜びを感じる自分に、またたまらなく嬉しく思

いました。歩く度に素直になる自分にも気付きました。

今まで自分の深いところで考えている夢を、人に話したことはありませんでした。「無理だ」と言われるのが怖かったからです。それを、いつの間にか一緒に歩いている人たちに話してしました。話を聞いてくれる存在、励ましてくれる存在、疲れを労ってくれる存在、一緒に歩いてくれる存在、どれだけ私に力をくれ、支えになってくれるか実感しました。

歩き遍路体験を終えた後の、この清々しい気持ちや同時に押し寄せる虚無感を言葉には表しきれません。終わってホッとしたのに残念に思う、とても複雑です。ゴールの岩本寺に着く前、「どうせなら松山まで歩いて帰ろっか」と言ったのは、あながち冗談ではなかったと思います。

多くのものを学びました。そして自分が少し成長したようにも思うし、世界も少し変わったように思います。私はこの遍路体験に参加できたことを、「心から良かった」と断言します。